

「白川」という地名

「白い川」を意味する白川という地名は、現在の岐阜県にある庄川の溪谷周辺で何世紀にもわたって使用されてきました。「白川」は、休火山である白山の下から流れ出る温泉の鉱物が支流の 1 つに流れ込むため、しばしば濁って見える庄川の水を形容した言葉です。江戸時代（1603～1867）、白川には 42 の集落があり、全体で白川郷と呼ばれていました。地元の武将や大名が統治していた当時の日本のほとんどの地域とは異なり、白川郷は徳川幕府（中央政府）の直接統治下にありました。幕府は比較的人口の少ないこの地域から主に木材を、さらに貴金属をいくらか調達しました。幕府の終焉と、それに伴う 1868 年の王政復古の後、白川郷は白川と庄川の 2 つの行政単位に分割されました。42 の集落のうち 23 の集落が白川村となり、現在に至ります。残りの集落は現在の高山市の一部である庄川村に割り当てられました。白川郷の名は今もこの歴史的な地域を指して用いられますが、より小さな白川村と混同すべきではありません。